

感 染 症 週 報

島しょ保健所八丈出張所管内感染症発生動向調査

管内 第33週
(8月12日 ~ 8月18日)

管内 第32週
(8月5日 ~ 8月11日)

東京都感染症週報 より抜粋

第32週

(8月5日 ~ 8月11日)
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/weekly/>



東京都島しょ保健所八丈出張所

〒100-1511

東京都八丈島八丈町三根1950番地2

TEL : 04996 - 2 - 1291

FAX : 04996 - 2 - 0632

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/tousyo/hachijou/index.html>

感 染 症 週 報

八丈出張所管内の感染症流行情報

(八丈町・青ヶ島村)

第33週(8/12～8/25)八丈出張所管内COVID-19 21件(内八丈町19件)
第32週(8/5～8/11)八丈出張所管内COVID-19 19件

新型コロナウイルス感染症・手足口病・マイコプラズマ肺炎にご注意ください！

八丈出張所管内では新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の報告が21件(前週19件)ありました。東京都全体では新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数が第32週(8/5～8/13)で5.49人(前週7.25人)と減少傾向がみられました。

東京都全体では手足口病の定点当たりの報告数は第32週で7.71人(前週10.61人)で減少傾向がみられますが、依然 **警報基準**が続いています。感染予防にはアルコール消毒が効きにくいので、こまめな手洗いや咳エチケットなどを心がけましょう。

東京都全体ではマイコプラズマ肺炎の定点当たりの報告数が第32週で2.12人(前週1.48人)と増加傾向がみられ今後の動向に注意が必要です。

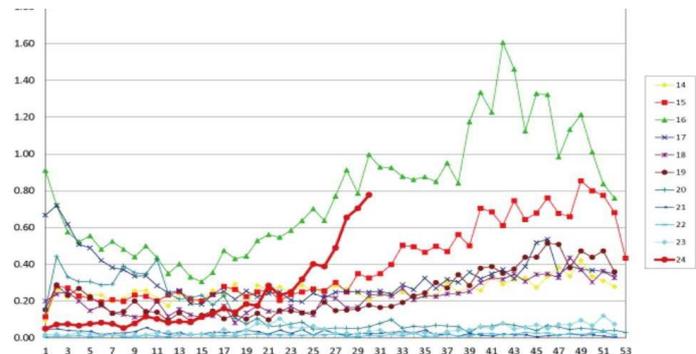
ひとくち感染症情報 「マイコプラズマ肺炎」

右図は国立感染症研究所の過去10年間のマイコプラズマ肺炎のデータになります。

以前に大きな流行があったのは2015年から2016年ですが、今年は同程度の高い水準となっています。

いずれの年も夏以降に患者数が増える傾向があり注意が必要です。

過去10年のマイコプラズマ肺炎 定点当たり報告数



マイコプラズマ肺炎とは？

マイコプラズマ肺炎は、「肺炎マイコプラズマ」に感染することによって起こる呼吸器感染症です。肺炎マイコプラズマは、自己増殖が可能な最小の微生物で、生物学的には細菌に分類されています。小児や若い人の肺炎の原因としては比較的多いものの一つで、例年患者として報告されるのは14歳以下が多いですが、成人の報告も見られます。マイコプラズマ肺炎は1年を通じてみられますが、冬にやや増加する傾向があります。

感染経路は？

感染は飛沫感染が多く、患者のせきの飛沫を吸いこんだり、患者と身近で接触したりすることにより感染するとされています。家庭のほか、学校などの施設内でも感染の伝播がみられます。感染してから発症するまでの潜伏期間は長く、2～3週間くらいとされています。

症状は？

発熱や全身けん怠感(だるさ)、頭痛、たんを伴わない咳などの症状がみられます。せきは少し遅れて始まることもあります。咳は熱が下がったあとも長期にわたって(3～4週間)続くのが特徴です。多くの人はマイコプラズマに感染しても気管支炎ですみ、軽い症状が続きますが、一部の人は肺炎となり、重症化することや、無菌性髄膜炎、脳炎、中耳炎などの合併症がみられることもあります。

予防法は？

飛沫感染はインフルエンザや新型コロナなどのように、同じ感染対策が有効です。普段からの手洗い、そして部屋の換気。患者の咳から感染するので、咳の症状がある場合にはマスクを着用するなど、咳エチケットも重要です。

治療方法

マイコプラズマ肺炎は、マクロライド系などの抗菌薬で治療されます。軽症で済む人が多いですが、重症化した場合には、入院して治療が行われます。せきが長引くなどの症状がある時は、医療機関で診察を受けるようにしましょう。

引用:東京都健康安全研究センター /国立感染症研究所 /厚生労働省 マイコプラズマ肺炎

八丈出張所管内患者報告数 推移グラフ (No.3) 令和6年第33週

